

編集後記

(55巻 第6号 2009年6月)

3年ぶりのAUA 参加のためにシカゴを訪れたが、到着当日に新型インフルエンザ発生のニュースが報道された。CNN では一日中インフルエンザ関連のニュースが流され、メキシコで死者が数多く出ていること、ニューヨークでも感染者が出たことが繰り返し放送されていた。帰国時の機内検疫は何事も無く通過して家路についたが、大学病院からは1週間の自宅待機の指令が届いていた。幸い5月の連休と重なったため、業務に差し障りは無かったが、遅れて帰国した医局員は皆に迷惑をかけたようだ。

新型インフルエンザ発症から1カ月が経ち日本でも患者が発症しているが、この間の厚生労働省の対応はこれで良かったのだろうか。そして、この貴重な経験を来るべき強毒性トリインフルエンザに活かすことが出来るのだろうか。私には「対応を遅らせて非難をあげたくない」という自己保身の姿勢が透けてみえた。

いま政府内では厚生労働省の分割議論が始まっていると聞く。省内で解決できるはずの医師(厚生)の過重労働・労基法違反(労働)問題でさえ議論も出来ていないのに、もう一度分割して何をやろうとしているのか。私にはさっぱりわからない。

(小川 修)